

はじめに

令和の時代が始まり、その最初の令和2年4月の診療報酬改定では、基本方針として人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現が急務の課題であるとされました。「医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」、「患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現」、「医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの推進」、「効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上」の観点から、効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上を図ることが重要とされています。

当院では以前から、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、クリニカルパスチーム、呼吸サポートチーム（RST）、認知症サポートチーム（DST）、排尿ケアチームなど、チーム医療の拡充・活発化により、多職種による感染防止対策や医療安全を積極的に推し進めており、効率的・効果的で、安全・安心な医療の提供と医療従事者の負担軽減に努めてまいりました。

本年は、新型コロナウイルス感染症という、新たな課題に直面し、多くの医療機関で、その対応に奔走されているところですが、当院では、このような特徴を活かし、職員が一致団結して対応してきました。今回の経験を契機に捉えて、このような非常事態が今後も起こりえることを想定し、感染症対策など、求められる多くの課題に対処できる、地域医療の要の役割を今後も果たすよう努力してまいります。

一方、経営面では、平成30年8月に第三次市立病院改革プランを策定し、経営改革に取り組んでいます。令和元年度決算では、1,205百万円の赤字となり、前年度からは320百万円悪化しています。将来にわたって当院の果たすべき役割を遂行するためにも経営の安定は必達の課題となっています。業務の効率化を図りつつ、質の高い、親切できめ細やかな医療の提供を行い、地域から信頼され必要とされる病院の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

令和2年（2020年）7月

箕面市病院事業管理者 稲野 公一

箕面市立病院総長 田村 信司